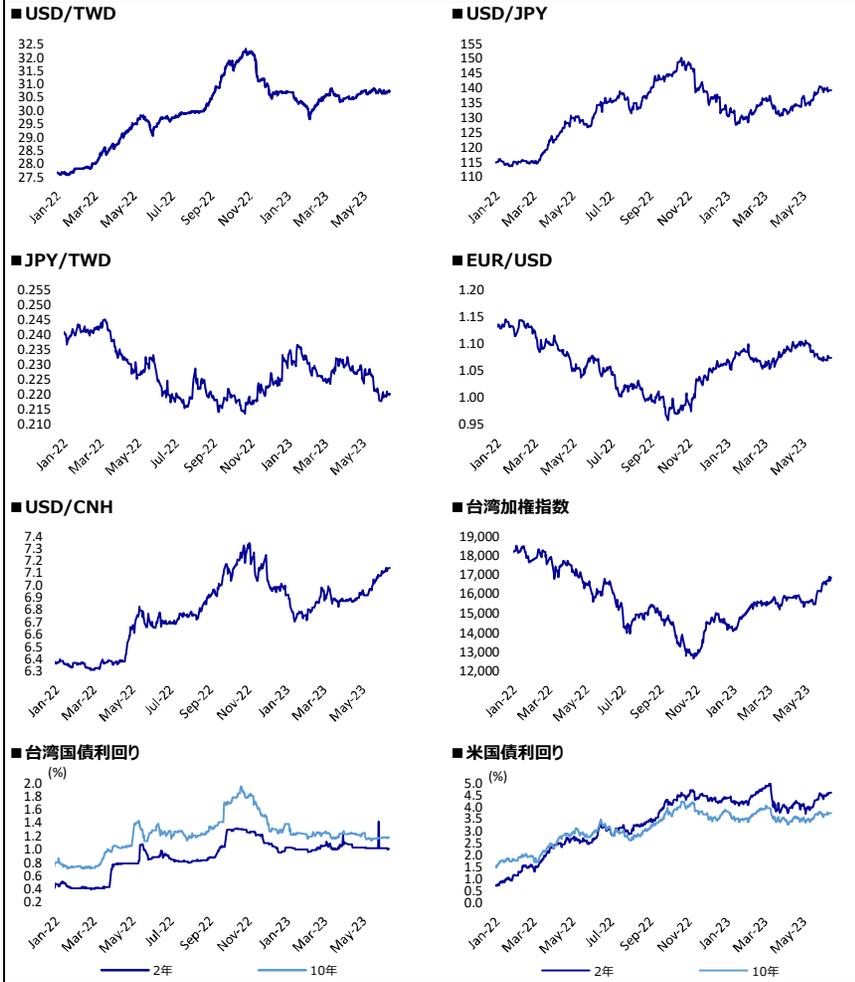


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/5は前週末の米雇用統計を受けてドルが全面高となる中、ドル買いが優勢となり、30.700でオープン後、30.71台まで上昇したが、上値は重く、30.68台に下落。6/6は一時30.655まで下落するも輸入企業のドル買いから底堅く推移し、海外への投資送金フローが入ると30.73台まで反発した。6/7は台湾株が反発したものの、海外への債券投資フローや、中国の5月輸出が予想を下回ったことから中国景気への警戒感もあり、売り買い交錯し30.7台前半のレンジでの推移となった。6/8はカナダ中銀のサプライズ利上げを受けてFRBの追加利上げが警戒され、台湾株が軟調に推移すると外国人投資家からの台湾ドル売りが優勢となり、一時30.780まで上昇。6/9は米経済指標の結果を受けて利上げ期待が後退したことから、リスクオンで台湾株が買われると30.70近くまで下落したが、外国人投資家の動向は一方にはならず、一時30.7台半ばまで上昇。最終的には先週比0.2%ドル高台湾ドル安の30.725で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は59.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初6/5は140.00でオープン後、方向感に欠き、140円台前半で推移。米金利の上昇が上昇すると140.45まで上昇する場面も見られたが、米5月ISM非製造業景況指数が予想を下回ると米金利が低下し、ドル円は一時139円台前半まで下落。6/6は特段材料がない中、139円台のレンジでの取引が続いた。6/7は大幅な日本株の下落を受けてリスク回避の円買いから139円台前半で推移。しかし、カナダ中銀が予想外に利上げを決定したことからFRBの利上げ継続が意識され、米金利の上昇と共にドル円は140円台前半まで反発した。6/8はリスクオフ相場の中、円が買われ140円を割り込んだ。さらに米新規失業保険申請件数が軟調な結果となり、米金利の低下と共に一時138.82円まで下落した。6/9は日本株の反発や米金利の上昇から139円台後半まで上昇するも、伸び悩み、最終的に先週比0.4%ドル安円高の139.98で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.500-30.800
今週は下落を見込む。今週はFOMCを控えているが、市場の想定通り、利上げが見送られた場合は、米金利の低下とリスクオンの流れから台湾ドルは買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.00-142.50
今週は各国中銀の金融政策が発表されるが、FOMCの動向で大きく動くであろう。先週はカナダ中銀が予想外に利上げを再開したことからFOMCの追加利上げ継続が意識されたが、足許はFRB高官の利上げ見送りの発言も相次いだことから据え置きの方が優勢である。しかし、米5月CPIがFOMC前に発表されることから、市場予想も大きく動く可能性もあり、警戒したい。なお、日銀については据え置きとの関係者筋の報道があり、影響は限定的か。

今週の予定

6/12 (MON)	
6/13 (TUE)	米5月CPI
6/14 (WED)	米5月PPI, FOMC
6/15 (THU)	台湾中銀金融政策決定会合、ECB理事会、米5月小売売上高、米5月鉱工業生産
6/16 (FRI)	日銀金融政策決定会合、米6月シンガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。